

講義題目：問答の観点からの哲学

第 10 回 (20181221)

§9 自然主義からの多様な表象・記号・意味の説明

1、理論哲学の概観：自然主義 対 構成主義

2 ミリカンの生物学的自然主義

(1) 「記号」とは、「意味する」とは、何か？

「意味する」は、心に抱く、意図する、表示する、という 3 つの意味をもっている。

「記号」は、二つの特徴（目的と表示）を持つ。

(2) 自然的記号 (natural signs) と志向的記号(intentional signs)の区別

自然的記号＝「ある有用な結果がその副産物としてたまたま自然的記号の生産をもたらす場合」

志向的記号＝「記号の生産そのものが有用な結果であるような場合」

ここから今週

(3) 志向的記号の区別：オシツオサレツ記号と記述的記号と指令的記号

ここでは、志向的記号が、どのように記述的記号と指令的記号に分かれるのかをミリカンに従って説明します。

(ミリカンの言う「志向的記号」と「志向的表象」は、おそらく同じものである。記号が外的であり、表象が内的であるということではない。「外的志向的記号」と「内的志向的記号」を区別するからである。)

3 つの志向的表象(103)

記述的表象

指令的表象

「オシツオサレツ」表象：記述的でありかつ指令的である「一番原始的な表象」107。

オシツオサレツ表象

「ずば抜けて基礎的であるような志向的記号は、私が第 6 章で「オシツオサレツ (pushmi-pullyu)記号と呼んだものである。それを P-P 記号あるいは、単に P-P と呼ぶことにしよう。」215f

(ちなみに、「オシツオサレツ(pushmi-pullyu)」は、『ドリトル先生』シリーズに登場する両頭動物だそうです。)

「P-P は、事実を表象することとその事実にあつかわしい行動を指令することが差異化されていない記号である。私が知る限り、人間以外の動物の間で用いられる志向的記号は、すべて P-P である」

「ウサギの危険一足叩き」は、一方では、ウサギの危険を意味するが、他方では、近くにいるウサギに隠れるように指令する。

「ミツバチのダンス」は、蜜がどこにあるかを告げるとともに、見ているミツバチがどこに行くべきかを告げる。

「ベルベットモンキーの有名な警告用の三種類の鳴き声」すなわち捕食者がヒョウの類か、ヘビの類か、それともワシの類かで異なるその鳴き声は、どんな種類の捕食者が見つかったかを告げるとともに、その種類の捕食者から逃れるのにふさわしい行動を指令する。

「人間の笑いや渋面も、意識的な意図でもって行われるのではない場合は、単純な P-P であり、笑いのほうは、利益になるかもしれないことがいま行われたことを告げるとともに、それを行いつけるように、あるいはふたたび行うように指令し、渋面のほうは、…と告げるとともに、…ように指令する。」 216

原始的動物のレベルの P-P

①「P-P は生物の体内でずば抜けてよくあらわれる志向的記号である。最も基本的なレベルの内的 P-P 記号は、神経分泌物質として存在するだけでなく、動物の身体組織や循環系にある多くの化学的メッセンジャーとしていたるところに存在する。これらは動物の身体のある部分から分泌されて他の部分へと送り出される信号であり、ふつう送り出す部分の状態を告げるとともに、送りだされた部分にどう反応すべきかを指令する。」

「これらの P-P は、身体の内平衡を保つ基礎的な調整因子であり、細胞や機関の働きを調和させて、身体の内平衡を通常の仕方で維持する働きをする。」

「ここに志向性をみるのは無理強いに見えるかもしれないが、ゼロを数として扱う場合と同じように考えることができるだろう。」

②「単純な反射、例えば予想以上に熱かったものからさっと手を引っ込めるような反射は P-P によって媒介されている。脊髄に到達する神経信号は、身体の中の部分が熱すぎるものに触れているかを告げ、その部分を引っ込めることを指令する。」

③「神経系のもっと高いところに行くと、蛇や高所に対する本能的な恐怖は、一部の人間もふくめて、多くの動物に組み込まれているが、それは内的な P-P である。指令通り働けば、それは一方で知覚であり、他方で指令である。」

④「基礎的知覚はギブソンが「アフォーダンス」と呼んだものの知覚であると解釈される。アフォーダンスはその動物にとって可能なさまざまな活動をアフォード（提供）する環境の諸側面である。例えば、環境の諸側面は、そのうえを歩くことや、そのうえに乗ること、そこを通過したりそこへ入ったりすること、それを追ったりそれからにげたりすること（獲物や捕食者）、それから良いと身をかかわすこと（近づいている対象）、それを投げること、などの可能な行動を提供する。」 219

ギブソンは、アフォーダンスの知覚は内的表象を含まないと考えている。しかし、「アフォーダンスの知覚およびそれへの反応をもたらす内的過程が、P-P 表象を含むことは間違いないであろう」

なぜなら、「生物が情報を「拾い上げる」とき、その内的状態にかならず変化が起こり、この変化した内的状態が環境のありかたをあらわす志向的記号であり、この記号が生物の反応を導くのである。」 219

「アフォーダンスの知覚であるためには、知覚される環境の変化と直接的に導かれる反応行動の変化の間に、直接的な写像関係があるということで十分であろう。すくなくとも、わたしは「アフォーダンスの知覚」という言葉を用いることにする。」 220

「原始的な動物は、探索方法として、知覚されるアフォーダンスの連鎖しか利用せず、したがってその行動が完全に内的 P-P 表象によって支配されている。このような動物を「オシツオサレツ動物」と呼ぶことにしよう。」 228

ミニレポート課題

課題 1

「人間の笑いや渋面も、意識的な意図でもって行われるのではない場合は、単純な P-P であり、笑いのほうは、利益になるかもしれないことがいま行われたことを告げるとともに、それを行いつけるように、あるいはふたたび行うように指令し、渋面のほうは、…と告げるとともに、…ように指令する。」 216

この「渋面のほうは、…と告げるとともに、…ように指令する」…に適切な言葉を補い説明を完成させてください。

課題 2：記述的表象が上記のようにして成立するとして、では指令的表象「目標状態の表象」はどのようにして成立するのでしょうか？